

後志の研究活動

研修部長 倶知安町立西小学校
校長 打矢 和美

1. はじめに

後志小中学校長会は、今年度より新たに第14次3カ年継続研究をスタートさせた。新しい時代の要請に応える教育を推進するために、研究主題を『未来を拓く、豊かで確かな学びを創造する学校教育の推進～信頼と活力を生み出す学校経営の充実と改善を目指した「後志版・教育プラン」の発展～』とした。『後志版・教育プラン』を一つの視点として、経営ビジョンの共有化や組織の活性化を図るとともに、自校の状況に合わせて活用・発展させる中で、より一層学校経営の充実と改善を計画的に推し進めたいと考えている。



2. 研究計画

(1) 研究主題及び研究主題設定の理由

①研究主題 『未来を拓く、豊かで確かな学びを創造する学校教育の推進』～信頼と活力を生み出す学校経営の充実と改善を目指した「後志版・教育プラン」の発展～

②研究主題設定の理由

数値として表れる学力を含めた「学び方」を確固たるものにするためには、校内組織、教職員の意識向上、豊かな心や健やかな体の育成、安全管理、小中9年間で育てるための小中連携や地域連携などの様々なアプローチが必要と考える。このような観点にも着目した「教育プラン」へと、活用・発展させていく研究を推進することが、信頼される学校づくり、活力ある教職員集団づくり、ひいては主体的に未来を切り拓いていく子どもを育てていくことになると考え、本主題を設定した。

また、ブロック研究においては、小中の連携や課題の焦点化、併せて全国・全道プロジェクトチームの課題との関連という視点から4領域（組織づくり・教育課程・健全育成・人材育成）を設定し、1ブロック1領域とし、小中が共通の研究を推進していくこととした。

(2) 研究の計画

- ① 後志小中学校長会研究大会を開催
- ② 各ブロックにおいて「ブロック研究交流会」を開催
- ③ 「研究の手引き」「研究紀要」の発行
- ④ 全道・全国大会への積極的参加
- ⑤ 全道・全国大会提言のためのプロジェクト活動の推進
- ⑥ 「後志版・教育プラン」により学力向上を目指した具体的な取組の一層の推進

3. 研究活動

(1) 平成26年度ブロック研究交流会

ブロック	開催日	開催地	研究領域	提言者
南	10月1日(水)	寿都町	健全育成	新井 融校長(ニセコ小) 後藤 正彦校長(島牧中)
山麓	9月29日(月)	留寿都村	教育課程	鈴木喜代志校長(南京極小) 加藤 勇一校長(真狩中)
岩宇	9月22日(月)	神恵内村	人材育成	下口 学校長(岩内西小) 庵 健司校長(泊 中)
北	9月16日(火)	古平町	組織づくり	瀧澤 祐司校長(野塚小) 藪 智樹校長(西 中)

(2) 平成26年度後志小中学校長会研究大会

- 期 日 平成26年10月21日(火)
- 会 場 共和町 生涯学習センター
- 助言者
 - ・北海道教育庁後志教育局義務教育指導監 岸 小夜子 様
 - ・北海道教育庁後志教育局義務教育指導班主査 田中 孝二 様
 - ・北海道教育庁後志教育局義務教育指導班指導主事 小野 篤夫 様
- 提言者
 - 「児童の健全育成と危機管理の推進における校長の在り方」
ニセコ町立ニセコ小学校長 新井 融
 - 「豊かで確かな学びを創造する教育課程の改善と充実」
京極町立南京極小学校長 鈴木喜代志
 - 「教職員の資質・能力の向上と協働性を高める学校経営」
泊村立泊中学校長 庵 健司
 - 「教職員の協働性を高める学校経営」
余市町立西中学校長 藪 智樹

(3) 北海道小学校長会教育研究 日高大会提言に向けたプロジェクトチームの組織

- 提言内容 第2分科会 組織・運営
「ビジョン実現に向けた組織構築と活性化を進める校長のリーダーシップ」
- 委 員 齊藤 信之(ニセコ町立近藤小学校長)～研究発表者～
三浦 卓也(仁木町立仁木小学校長)
中田恭太郎(積丹町立余別小学校長)

(4) 「後志版・教育プラン」の活用・発展

- 昨年度より「教育プラン」を核として確かな学びをつくる取組を「チーム後志」を挙げて行っている。各校長は、自身の経営ビジョンを示し、学力向上の取組をこのプランで具体化している。「何を・どのように・いつまでに」行うかを具体的に示し、教頭の作成する運営計画で分掌毎により取組を具体化し、教職員の共通理解の下進めている。今年度は、自己目標シートとリンクさせた取組や、「徳育」・「体育」・「信頼される学校」等、同一様式でのプランが示され始めるなど、発展的に活用する事例も見られた。

4. おわりに

学校経営の充実と改善を目指し、「後志版・教育プラン」の活用・発展を一つの視点に第14次研究がスタートした。各ブロックにおいては、研究推進委員会を中心とした協働体制の下、3年後のゴールを見据え、具体的な取組が進められている。プロジェクト委員会では、道小日高大会において提言を行い、全道に後志の研究の成果を発信することができた。今後は本研究一年次の成果と課題を整理し、二年次の研究推進につなげたい。